

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
15100004	実空間における複合感性の動的モデル化とその応用に関する研究	加藤 俊一（中央大学・理工学部・教授）	A
<p>感性情報処理という挑戦的な課題に対し、人工システムとしての設計論を明らかにし、心理的な側面の統計的処理や主観的過程の客観視など、優れた成果が上げられていると評価できる。しかしながら、設定課題が本来もつ構造の深さへのアプローチが不足しているように思われる。知覚の生理学的な側面に加え、認知的な側面においても、イメージングの研究などを参考に、科学的にも意味のある成果が得られた可能性があったと推察される。</p> <p>限られた研究費の枠内では困難かもしれないが、そのような問題意識の表明があってもよいと思われる。</p>			